



SUSAP 韓国 大邱大学校プログラム

2018. 8. 7～8. 25

参加者プロフィール



居石 知里(団長)

経済学部

経済学科 3年

1年次に教養で韓国語を履修していたこともあり、今年の2月に韓国旅行に行ったが現地の方とコミュニケーションをとることができず悔しい思いをし、少しでも会話ができるようになれば良いと思い参加。



中島 瑛里奈(副団長)

農学部

応用生物科学科 2年

3週間韓国語を学ぶことができることに魅力を感じ、また基本教養で1年間学んだ韓国語を使いたいと思い、このプログラムに参加した。



大曲 絢子

農学部

応用生物科学科 2年

一年の春に、初めて海外に渡航したのをきっかけに、もっと様々な場所に行き、文化の違いなどを自分の肌で感じたく、また、韓国語を履修していたので、そのブラッシュアップを韓国で行いたかったことも、SUSAPを希望した理由である。



吉田 博美

経済学部

経済学科 2年

以前から韓国に興味を持っていた。実際に留学することで、文化や言語に触れることが出来ると考え、参加を決意した。



柳瀬 悠希

経済学部

経営学科 2年

高校生の時から韓国に興味を持っていて、今回の留学で現地の人と交流したり文化や歴史を知ったりしたいと思い参加を決意した。



山崎 みすず

経済学部

経済法学科 2年

日常的に使われている会話を肌で感じたかったことと、語学力の実力を試すために日本語のほとんど通じない大邱での留学を決意。



重松 佑佳

農学部

生物環境科学科 1年

韓国語や韓国の文化、歴史について興味がありました。長い夏休み、何か新しいことに挑戦したいと思い参加。

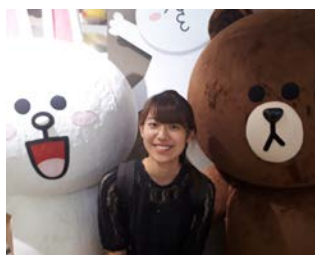


尊田 早紀

理工学部

機能物質科学科 1 年

アルバイト先に来る韓国人のお客さんに韓国語で接客出来るようになりたいと思い、韓国語の勉強のきっかけづくりになればと思い参加を決意。



柴戸 沙綾

農学部

応用生物科学科 1 年

以前から長期休暇を利用して海外に行ってみたいと考えていたので、SUSAP プログラムを知り興味を持った。文化体験もしつつ、韓国語も 1 からしっかりと学べるということで、この大邱のプログラムへの参加を決意。



原口 ななみ

農学部

生物環境科学科 1 年

一度は海外に行ってみたいと思っていたことと、元々韓国に興味があったことから今回のプログラムに参加することを決めた。

プログラム概要

【期間】2018年8月7日～8月25日(19日間)

【留学先】大邱大学校 北道慶山市珍良邑内里 15

【内容】韓国語の授業を週16時間行う。総合、聴力、読解の授業を受ける。またまた特別課外がある場合には午後から伝統文化の授業も受ける。毎週金曜日には歴史や現在文化、技術について触れる近郊ツアーに出かけた。放課後や休日は市内や遠方に赴いた。

大邱大学校について

1956年に創立。キャンパス面積は国内第1位であり、人文大学法科学部、行政学部、経商学部、社会科学部、自然科学部、工科学部、情報通信学部、生命環境学部、造形芸術学部、師範学部、リハビリ科学部、夜間講座

看護保健学部、国際学部、教養学部がある。

授業

月曜日から木曜日まで週4日。金曜日は大邱近郊ツアーで現代文化や伝統文化や歴史や技術について学ぶ。授業は1時間目9:00～9:50、2時間目10:00～10:50、3時間目11:00～11:50、4時間目12:00～12:50までで、それぞれ授業と授業のあいだに10分休憩を挟み、韓国語のリスニング、スピーキング、ライティング能力向上のための授業が行われる。韓国語の理解度別にクラス編成が行われ、初めから韓国語で授業が行われる。教科書に沿って授業が行われ、ハングル文字の書き方から挨拶、文法、日常生活において役に立つ言葉などを習得した。生徒が積極的に発言できる授業形態で、他国の留学生とも韓国語でコミュニケーションを取ることで、韓国語に対する理解がより深まった。発音も先生方から厳しくチェックされ、現地の先生方から教わることでよりネイティブに近い発音を習得できた。教科書の練習問題を多くこなし、毎回先生からチェックを受けることで間違っているところをすぐに訂正できた。先生は大変友好的で褒めて伸ばしてくれたので、勉強するのがとても楽しかった。

月	火	水	木	金	土	日
	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日	8月12日
	福岡 19:25発 大邱 20:25着	9:00-12:50 韓国映画鑑賞① 14:00-16:00	9:00-12:50	9:00-12:50 大邱近郊ツアー 9:00-17:00	自由	自由
8月13日	8月14日	8月15日	8月16日	8月17日	8月18日	8月19日
9:00-12:50 韓国伝統体験① (韓服折り紙) 14:00-15:50	9:00-12:50	国慶日 (休講)	9:00-12:50 韓国伝統体験② (ユンノリ+チュギ) 14:00-15:50	9:00-12:50 清道(チョンド)旅行 雲門寺・ワイントンネル 9:00-17:00	自由	自由
8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	8月24日	8月25日	
9:00-12:50 韓国伝統体験③ (韓箱作り) 14:00-15:50	9:00-12:50	9:00-12:50 韓国映画鑑賞② 14:00-16:00	9:00-12:50	総合試験 (筆答/口述)	大邱 17:20発 福岡 18:25着	
				修了式		

バディとの交流

私たち日本人10人に対し、バディの数は1人だった。分からないところや困ったことがある時にはいつも助けていただき、時には出前を代わりにしてもらったり私たちがバディの方に日本語を教えて、バディの方に韓国語を教えてもらったりしたこともあった。

大邱での生活について

・食生活

大邱大学はとても広いため、学内にコンビニやカフェや食堂やパン屋やデザートを取り扱うお店まであった。大邱大学の正門前の通りには飲食店が立ち並び、毎日安くて美味しい料理を食べることが出来た。お弁当屋さんもその通りにあったため、テイクアウトして寮の部屋で食べたりもした。テイクアウトできる飲み物のお店もあり、日本のカフェよりも倍近く安くて沢山飲むことが出来た。

・交通手段

大邱での主な交通手段は、バス、地下鉄、徒歩である。大学はとても広かったが徒歩で移動したため、1日1万歩を優に超える時もあった。市内まで行くためにはバスと地下鉄を使う。韓国では主に、バスでも地下鉄でも利用出来る「Tマネーカード」というICカードを利用した。コンビニなどでも購入することができるため、私達も1人1枚購入した。バスはどこまで乗っても約125円で、バスからバス、バスから地下鉄、地下鉄からバス、地下鉄から地下鉄に乗り換える際は、30分以内であれば乗り換え分の料金が1回分無料になる。

・生活費

韓国ではウォンを通貨として用いる。1000ウォンは日本円で約99円である。生活用品や食品は、大邱であれば日本に比べて安い。ソウルなどの都会ではあまり変わらない印象を受けた。韓国ではクレジットカード決済が主流であり、私達もおおかたの会計をクレジットカードで行った。現金支払いもできるが、大多数の人がクレジットカードで決済をしているため、韓国に行く際はクレジットカードを作っていくことをお勧めする。

「初めての犬」

経済学部経済学科 3年 居石 知里

私は今回韓国の大邱大学に3週間の短期留学を行いました。あっという間の3週間で韓国の伝統や文化、言語を学び充実した生活を送ることができました。韓国への留学は2月に初めて韓国を訪れたことがきっかけです。言葉がわからず、買い物をすることも怖くて一緒に来ていた韓国語を話せる子に頼ってばかりいました。話しかけられても全く返すことができず悔しい思いをしたことが今回の留学に至りました。

大邱大学ではまず初日にクラス分けが行われ、自分に合った授業を受けることができます。この期間で教科書1冊を終わせたのでスピードは速いと思いますが授業は非常にわかりやすく、毎日集中して取り組むことができました。わからない単語や文法がでたらすぐメモをして夜に復習することを心がけていました。授業は9時から始まり13時に終了、週に3回程午後には文化体験や1日バスで見学ツアーが行われ韓国について知ることができる貴重な時間となりました。文化体験では韓国の伝統の韓服を紙で作ったり、筆箱を作ったりしました。また学校には映画館のような部屋があり、そこで韓国の映画をみる機会もありました。見学ツアーでは大邱の伝統を見ることができる博物館やお寺などの見学を行いました。

大邱はソウル、釜山に次ぐ韓国で3番目の都市と言われている、韓国南東部に位置しています。私はこの留学プログラムで大邱を初めて知りました。私のように知らない方も少なくはないと思います。正直にいうと大邱に対する良いイメージは湧いていませんでした。しかし、3週間生活してみてもわかったことですが、大邱の町は栄えており、交通の便も良く、伝統もしっかりと残され受け継がれているという大邱の魅力を感じました。大邱大学から市内まではバスや地下鉄で1時間程と時間はかかりますが、運賃は日本円で片道125円と安いので時間があるときには市内に出かけていました。特に東城路という場所は店舗がたくさん連なっており多くの若者が訪れ、夜になるとステージや通りで歌を歌う人もいて、さらに活気づいた東城路をみるのでおすすめです。

私が留学中成长したと感じたことの1つ目は2月の旅行の際、1人でできなかった買い物ができるようになったことです。初めは緊張していた買い物でしたが何度か行っていると店員さんに聞かれることはほとんど同じことで、それを感じてからは相手に話しかけられることが怖いと思わなくなりました。この怖さがなくなったおかげで道を聞くこともできるようになり、何度も現地の方と積極的にコミュニケーションをとることで言われていることはなんとなく理解ができ、短い文章で会話を続けることも可能となりました。授業で習ったことや日本で覚えた単語を実際に使って通じた時の喜びは忘れることはできません。2つ目の成長として恥ずかしさがなくなったことです。日本でも1人でカフェなどには行ったことがありませんでしたが、韓国語を話すことに少しでも自信をつけたかったので大邱で初めて1人でカフェやショッピングに行きました。最初は言葉の違う海外で、1人で

お店に入ることはためらいましたが、店の前まで行きこまできたなら入るしかないと思い入りました。1人カフェができたことでその後は恥ずかしさもなくなり、積極性が向上できたと思います。この行動は今までの自分には考えられないことで言葉の違う海外で、1人で何かをすることができたことは成長につながったと感じています。3つ目の成長として海外の方に対しての壁を取り除くことができたと感じている点です。これまでは海外の方を見ると言葉が通じない不安から話しかけられないように壁を作っていました。韓国での体験で困っている際に話しかけると皆さん優しく教えてくださり、またその場所まで案内までしてもらえたりしました。さらに通じなかったら一生懸命伝えようとされる姿を見て私も日本にきた海外の方を助けたいと感じるようになりました。今後は海外の方と積極的に接していきます。

今回の留学を通してたくさんの成長ができました。韓国の伝統や文化、大邱の魅力を他の人に伝えていきます。このプログラムに参加して本当に良かったです。



語学堂の先生と修了式後にて

「3 週間の留学生活」

農学部応用生物科学科 2 年 中島 瑛里奈

私は韓国の大邱大学に約 3 週間留学しました。一見、3 週間という期間は短いように感じますが、韓国語の語学力向上と韓国の文化を理解するのに十分な時間で、1 日 1 日が濃かったです。学校での生活と私が日本と違うと感じた韓国の文化について紹介したいと思います。

まず学校生活についてです。授業は 9 時から始まり、50 分×4 の授業です。1 クラス 10～16 人ほどでレベル別にクラスが別れており、私が受けていたクラスは、全て韓国語で授業が行われていました。しかし、先生の授業はとても分かりやすく、毎日新しい単語や文法が出てくるので、毎時間とても集中して授業に臨むことができました。授業は読む、書く、聞く、話す、の全てが詰まった授業であったので、日が経つごとに韓国語が身についているのを感じていました。また、3 回ほど韓国の文化体験の授業もありました。折り紙で伝統的な着物を折ったり、ユンノリという伝統的な遊びを体験したりしました。金曜日は留学生全員でバス旅行にも行きました。ベトナム人留学生達とも交流することができました。また、大邱大学は寮から教室までが歩いて 15 分かかくらい大きな大学で、学校内にカフェやコンビニ、ジムやプールまでありました。但し大学自体は田舎な場所にあったため、学校近くの店や街は日本語が通じる人がほとんどいませんでした。しかし、それが逆に、自分の知っている韓国語を駆使して話し、街で使える言葉を自主的に調べるのでより語学力が向上したと思います。また、大学近くには安くて美味しいお店もあり、バスで 10 分程の所にハヤンという街もあったので、あまり不便とは感じませんでした。

次に私が感じた日本と違う韓国の文化を紹介します。これは大きく分けて 3 つあります。

1 つ目はとにかくせっかちなことです。韓国語で「早く早く」を「쯔파리쯔파리」(빨리빨리)というのですがまさにこの精神でした。ご飯屋で韓国人はお店に入っすぐ注文してしまいます。私がメニューを見ていると、お店の人に「早く早く」と圧をかけられてしまいます。また、1 番驚いたのはバスのスピードでした。よくバスを利用していましたが、恐らく時速 120 キロは出ていたと思います。乗降のときもすばやくしないとバスの扉が閉まり、すぐ発進してしまいます。「バスの時間が決まっている訳でもないのになぜこんなに急ぐのだろうか」といつも思っていました。

2 つ目は交通機関の安さです。韓国には交通カードというのがあって、これにお金をチャージすればバス、地下鉄がなんと 125 円で乗れてしまいます。しかも乗り換えを 30 分以内にすれば乗り換え代はかかりません。またタクシーも非常に安いです。初乗り料金が 300 円ほどで、2、3 人で乗れば更に安く済みました。またバスも地下鉄も 5 分も待たずに次の便が来て、タクシーも沢山走っているのととても便利でした。

3 つ目は仕事中の店員さんの態度です。韓国では店員さんが仕事中に携帯をいじっていたり、ご飯を食べたりしている

のが当たり前のようでした。もちろん全てのお店がそうではありませんが、日本では考えられない光景だと思いました。

私は、平日の午後や土日には色々な街に行きました。観光だけでなく、韓国語をたくさん使うという目的がありました。留学する前の自分は頭では考えていても、いざ行動に移すとなると勇気や自信がなく行動に移せませんでした。しかし、街にいる時は携帯がネットに繋がらないため、頼れるのは自分の語学力だけでした。そのため、分からないことがあるとすぐに人に聞いたり、道を聞いたり、積極的に話しかけたりしました。タクシーもきちんと行き先まで乗れ、運転手さんと会話もすることができました。日本でももちろん韓国語の勉強はできますが、使う機会は少ないと思います。しかし、韓国で韓国語を学べば、学習したことをすぐに話し、使うので韓国語の上達が早いです。留学後半では日本語で話していても、間違って韓国語を言いそうになったり、友達と言った日本語の韓国語が頭によぎったりするくらいでした。それだけ密な留学生生活を過ごすことができたのだと思いました。

この留学で実際に韓国の文化に触れることで韓国の良さを感じ、日本の良さも再確認することができました。そして期待以上の韓国語の語学力と、勇気と自信を持つことができ、積極性も身につけることができました。これは今後の学校生活や就職活動にも必ず活きると思います。そして今後更に韓国語を勉強して、今度は 1 人で韓国を訪れたいと思います。留学して本当によかったです。



大学の寮から見える大自然

「文化や価値観の違いを知る」

農学部応用生物科学科 2年 大曲 絢子

私は大邱大学プログラムに参加して、日本と韓国の人々との価値観や文化、生活の違いを知ることができました。

大邱大学プログラムでは、午前中は韓国語の授業を他の国の人々とも受け、午後は火曜、木曜に文化体験がありました。そのため、平日でも学校で習った言葉を実際に使いたく、できる限り外へ出て地元の人に道を聞いたり、お店に入ったりしていました。

韓国の方は私が想像していた以上に親切でフレンドリーな人が多く、驚きました。私は、若い人は親日な人が多いけれども、高齢の方は、反日の方が多く、サバサバしているイメージでした。ですが、「カバンが開いているよ」と言って、わざわざ閉めてくれるおばあさんもいましたし、地下鉄で立っていると席を譲ってくれた方もいました。3週間過ごしていく中で、もちろん反日の方なのかなと思う方はいましたが、こんなにも全く知らない他人に優しく接してくれる人がいることに、私は感動しました。韓国語が全く聞き取れない時も、身振り手振りで教えてくださいました。

また、私が韓国語を学んでいくうちに、韓国人が上下関係に厳しいことが分かりました。日本も世界的に見ると厳しいですが、日本よりも年上の方に対する接し方が丁寧だと思います。儒教の影響なのかなと思いました。韓国語には、年上に対する、日本でいう尊敬語というものがありますが、それを使う範囲が広いのです。自分より年上の方には、誰でも尊敬語を使っているような気がします。父や母、姉のことを他人に話す時もそうです。私は、家族に尊敬語を使うなんてしたことなかったので驚きました。そこが、日本と韓国の大きな価値観の違いなのかなと思います。

文化的な面でも、韓国と日本の違いをたくさん見つけました。その違いを一言で表すと、韓国人は、日本人よりも大雑把な人が多い気がします。これは日本人が真面目で几帳面すぎるのかもしれませんが、驚きました。印象に残っていることは、仕事上の仕草です。お店の方が、店員さん同士で椅子に座って話をしていたり、携帯を触っていたり、何かを食べていたりしていました。働き方が自由だなと思いました。1番驚いたことは、バスの運転手が、乗客を待たずにドアの開け閉めをすることでした。だから、乗る人も降りる人も、まるで、「よーいどん」の合図で一斉に乗り降りしているように見えました。このように、日本なら許されないようなことが、韓国では普通なのだなと思い、非常に面白かったです。

また、韓国では、自転車に乗って移動する人をほとんど見なかったことも気になりました。大学内でも自転車ではなく、セグウェイに乗って移動している学生を多く見かけました。最初は、その学生達が、お金持ちなのかなと思っていましたが、あまりにも自転車を見かけないため調べてみると、韓国では、自転車は低所得者の乗り物というイメージがあるそうです。つまり、自転車は自動車を買えない人が乗る乗り物ということです。確かに、ホームレスの人が古い自転車に

乗ってダンボールを集めている姿は、何度か見たことがあったので、なるほどと思いました。

ところで、私は最初、ハングルを読める程度の語学力で大邱大学に留学したので、韓国語で受ける授業に抵抗があり、自分だけついていけないことも、くじけそうになることも多くありました。ですが、なんとか授業のスピードに遅れを取らないよう専用のノートに単語やその日習ったことをまとめる作業を毎日行い、それを持って街に出かけていました。現地の方と話す時には、このノートがとても役に立ちました。最終日には、自分で文を作り、自己紹介することとなり、3週間でここまでできるのだと自分でも驚きました。

また、環境の重要性も再確認しました。日本で3週間韓国語を勉強するよりも、現地に来てハングルに囲まれた中で勉強の方が、何倍も覚えが早いです。嬉しいことに、大邱はソウルや釜山に比べると、日本語が話せる人がものすごく少なかったため、コミュニケーションをとる手段が韓国語だけでした。とても苦労しましたが、おかげで、何回も使うフレーズや、単語を驚くほど早く習得でき、忘れにくくなりました。やはり、実践が1番なのだと思います。

私は、この大邱大学のプログラムを通して、韓国と日本の様々な違いを実感し、自分の視野を広げることができました。海外に行くたびに、先入観というものがなくなり、様々な価値観や宗教を受け入れられるようになってきたと思います。

これからも、いろいろな場所に行き、知らない世界を自分の目で見ていきたいです。



大邱大学の学生とカフェに行った時の写真

「大邱大学プログラムに参加して」

経済学部経済学科 2年 吉田 博美

私にとって今回の留学は、初めての海外生活になりました。たった3週間という短い間でしたが、とてもいい経験がたくさんできた有意義な留学でした。

授業は毎日9時から12時50分までありました。わたしは韓国語が全く分からない状態で行ったので、初級クラスでした。しかし、これが初級レベルなのかと驚くほど授業で扱う内容はとても実践的で、あいさつやショッピングに行くときに使えるフレーズ、電話のかけ方など、日常生活でかなり役立つものでした。先生は韓国の人でいらっしゃったので、韓国語で授業は行われました。最初のころは何を言っているのか全く分かりませんでしたが、後半にもなると、先生が言っていることがなんとなく分かるようになるほど、韓国語に耳が慣れました。また、日々授業で学んだことが増えていくたびに、お店の店員さんが何を言っているのか、看板に何と書いてあるのか、なども少しずつ単語で分かるようになっていきました。先生はとてもやさしくて、いつもたくさんのお声掛けをしてくれて、私たちを気遣ってくれました。熱心でおもしろい先生の授業は毎日楽しく受けることができました。また、同じクラスには日本人だけでなく、ベトナム人やアイルランド人がいました。練習を通して、その人たちともかかわることができたのは、とてもいい経験になったと思います。

午後の文化体験では、韓国の映画を鑑賞したり、韓国の伝統的な服を折り紙でおってみたい、筆箱を作ったりしました。

金曜日にあった大邱近郊ツアーでは、博物館めぐりをしたり、神社やワイントンネルなどに行ったりしました。韓国と日本の文化の違いを見て体験することができて、とても良かったです。

授業が終わったあとの何もない午後は、大邱市内にいくことが多かったです。このプログラムに参加する前、大邱はとても田舎だ、佐賀よりも田舎なのだ、ということを韓国からの留学生に聞いていたので、どのようなところなのかとても想像が付きませんでした。しかし実際行ってみてわかったことは、大邱は佐賀ほど田舎ではなかったということです。大学からバスで5分ほど行ったところにはお店がたくさん立ち並ぶ市場がありました。そこには食べ物屋や、化粧品屋などがたくさんあり、一日見てまわることができるほど栄えていたのでとても驚きました。

大邱に行くととても便利だな、と思ったのはバスの本数がたくさんあることです。福岡はたくさんありますが、佐賀は何十分かに一本くるのが普通だと思います。しかし、韓国では数分に一本バスがやってきます。そのため、バス停にはそもそも日本ではふつうにある時刻表がなく、最初は驚きました。

交通費もとても安く、T-money カードを使えばふつうのバスは、125 円、地下鉄は 100 円で乗ることができます。バスは何回も利用しましたが、5 分のとても 1 時間のとても変わ

らず 125 円であることにはとても助かりました。韓国に行って自転車に乗っている人を佐賀ほど見なかったのですが、これだけ公共交通機関が発達しているうえに、値段も安かったらそれは自転車を使わないだろうな、と納得しました。また、タクシーも一度利用したのですが、最初の料金が、280 円からはじまったので、なんて安いのだ、ととても驚きました。

また、寮をはじめ、大学や飲食店にウォーターサーバーが置いてあることに驚きました。飲食店で水が無料なのは当たり前な気もしますが、大学や寮に、無料で誰もが利用しているウォーターサーバーが置いてあるなんて、とここでも日本との違いを見つけることができました。

わたしはこの3週間を通して、本当にたくさんのことを学ぶことができました。日本との町の違いや、文化の違いは実際に行ったからこそ、初めて気づくことができたと思います。韓国語も、実際に韓国の人話す言葉を聞くことで、より耳をきたえることができたのではないかと思います。3週間は思っていたより本当にあっという間に過ぎました。もっと自分の韓国語のレベルをあげたい、という気持ちになりました。

このプログラムに参加することができて本当によかったです。ありがとうございました。



大邱大学生とカフェにて

「大邱大学に行って」

経済学部経営学科 2年 柳瀬 悠希

私は今回の SUSAP 留学に参加させていただいて、コミュニケーション能力の大切さ、文化の違いを知ることの大切さを学びました。

今回大邱大学の留学プログラムに参加して良かったと思ったことは、観光する時とは違って生の韓国人の方々と関わったことです。生の韓国人というのは、観光客慣れしておらず、日本語が話せない韓国人のことを意味し、その方々と関わることで韓国語の発音や文化の違い、日本人に対する対応の仕方などを知りました。まず驚いたのは、若者よりも年配の方の方が私たち日本人に優しく接してくれるということです。歴史の関係上、年配の方々は私たち日本人にいいイメージを持たれていないものだと思っていました。しかし、道を聞いた時やわからないことを質問した時、親切丁寧に教えてくれたり日本について知りたいと仰ってくれたりしてくださったのは若者ではなく年配の方でした。最初は年配の方に話しかけるのが怖くて若者にばかり尋ねていましたが、勇気を出して話しかけると皆さん笑顔でたくさんのことを教えてくださいました。

また、授業ではとてもいい先生に恵まれ、毎日楽しく授業を受けつつも、しっかりと知識を吸収していくことが出来ました。授業では積極的に発表する授業形式だったので発表するのが苦手な私にとって最初はきついな、と思った面もありましたが、時間が経つにつれもっと発表したい、発言したい、と思えるほど授業を楽しめていました。最初はハングルの書き方、発音の仕方、パッチムについてなどの本当に基本的なことから学び始め、次第に会話、文法、リスニングなどのなかでも日常的に用いるものを習っていきました。毎日のように授業が終わったあと市内に出かけたり外食をしたりしたので、授業で習ったことをその日のうちに実践できることが多く、習った言葉を使える機会があることがほんとに嬉しかったです。また、毎週金曜日には大邱近郊に出かけて、先生方のガイドのもと、博物館に行ったりお寺に行ったりしました。中でも1番思い出に残っているのは와인터널(ワイントンネル)です。山のトンネルの中にワインが沢山あって、暗くて湿度が高い長いトンネルの中をひたすら歩いて、ちょっとだけ怖かった思い出があります。中ではワイン1杯とチーズを食べることが出来ました。柿のワインを飲んだのですが、今まで飲んだことのないような味だったので、とても大人な味だなと思いました。博物館やお寺では、テグの有名な特産物を知ることが出来たり、韓国の伝統文化や歴史を学んだりすることが出来ました。

また、生活の面では、文化の違いに驚くことがとても沢山ありました。具体的には、自動車やバスのスピードが日本と比べてとても速いこと、そしてバスはどこまで乗っても料金が125円であること、またバスからバス、地下鉄から地下鉄、地下鉄からバス、バスから地下鉄の乗り換えが30分以内であれば1回無料であること、また、レジ袋はほとんど有料であること、ひとつその商品を買えばもうひとつ同じものが貰える1+1という制度があること、などたくさん日本と違うことがあり驚きました。韓国は日本のお隣の国ですが、

国が違ふとこんなに文化も考え方も違ふのだなと感じました。最初はバスのスピードに慣れずにちょっとバスに乗るのが怖かったりしたのですが、最後の日に近づくにつれ、すっかりバスの速さにも慣れて、今日本に帰ってきてからバスに乗ると逆に日本のバスは遅いと思うほどになりました。料理の面では、飲食店に行くとき必ず最初に無料でキムチやナムルなどが出てきて、頼み方や会計の仕方にも違いがあることを知りました。ご飯はやはり韓国なので辛いものが多くて、汗をかきながらいつも食事をしていました。

最後に、今回、この韓国留学プログラムに参加させていただいて本当に良かったです。現地で友達も沢山出来たし、言葉が自分たちの思い通りに繋がらないながらもジェスチャーをしたりして会話したり、思わぬ共通点を見つけて驚いたり、楽しい思い出が沢山出来ました。機会があれば今度は韓国ではなくてもまた違う国にも行ってみたいと思ったし、言い経験がたくさん出来て本当に良かったです。

↓写真:大邱大学本館



「文化の違い」

経済学部経済法学科 2年 山崎 みすず

私は大邱大学プログラムに参加して、当然のことだが日本と韓国の文化は似ているようで違うところが多々あると感じた。例えば小さなことで言うと指を使った数の数え方が途中から違う。また、物事のとらえ方や感じ方が違う。そのため、異文化の中で生活するためにはその違いを受け入れながら生活することが大事である。ここからは実際に私が生活してみて、驚いた文化の違いについて述べていこうと思う。

まずは車社会についてだ。日本は誰もが知っている通り、歩行者優先である。そのため交通事故が起きた際の全責任は車側にある。それに対し、韓国の場合は車優先であるため、全責任は歩行者側にある。だがそうは言っても韓国人の運転はかなり荒い。平気で信号無視をする車もいれば、それが公共交通機関であるバスがする場合もある。だから歩行者も信号が青だからと言ってのんきに歩いていては事故に巻き込まれる可能性がある。信号のない横断歩道では車は止まってくれないため、自分でタイミングを見つけて渡るしかないのだ。韓国人は常に急いでいるしぐさを見せるのだが、バスの運転手を観察していてもせかず癖があると思った。お客さんがバスに乗った瞬間にドアを開けて出発し、常に高速道路と同じくらいのスピードで運転する。私が驚いたのは、お年寄りがバスに乗り、まだつかまっていないのに急発進したため通路に倒れてしまった時だ。若者でも遠心力によって飛ばされそうになることが多々あるため、少し危険だと思った。このことについて韓国人の友人に聞いたところ、バスのスピードは確かに速いが、目的地にも早く着くためお客さん側からすると嬉しいそうだ。だが車同士の譲り合いもあり目にしなかったように、交通事故が多いのも確かだそうだ。そのため、安全面やお客さんへの思いやりの心を考えると日本のほうが私にはあっていると感じた。

次は店員の勤務態度だ。日本人の感覚からするとあり得ないと思ったのがこの店員の態度だった。もちろんサービスをたくさんしてくれたり、常に笑顔で感謝を述べてくださったりする方もいた。だが、レジでお会計をしている際に片手に携帯を持っていたり、お客さんの隣で座って携帯を触ったりしている光景が多くみられた。カフェでテイクアウトしたものと思われるものも同様に、仕事中に持ち歩いていた。だが、韓国ではこの光景が普通であり、どこへ行っても同じような光景で、それを気にするお客さんもいなかった。売り物の横で食事していたり、購入した商品を投げ渡されたりしたときは少し驚いたが、これも一つの文化として受け入れることで気にならなくなった。そのため日本に帰国した際は、従業員の対応に一瞬焦ってしまった。だからこれに関しては、日本人は素晴らしいと感じた。

最後は市場などの街についてだ。日本と比較すると、ご飯屋さんは夜から開く店が多い。そのため、昼頃に行くと開いている店はチェーン店が多いのである。そのため、夕方以降に行くとほとんどの店が開いて明るくなり、とても栄えだすのである。また、カフェや化粧品を取り扱っている店がかなり多い。カフェについては軽食がなく、飲み物のみの店が多い。そしてサイズは大きいのだが低価格で販売してある。そ

のため街を歩いていると多くの人が飲み歩きをしている。また、手に持ったまま他の店に入店することも可能だった。だが、ごみ箱についてが問題で、ごみ箱からあふれ出した個所やポイ捨てが多く見受けられた。それもあつてか蟻がどれも目に見える大きさで、女王蟻ではないかと思うくらい大きかったのである。化粧品や飲み物については一つ買えば一つついてくるといったお得な商品が至る所にあった。また、服なども糸の切れ端などが飛び出ている少し気になる点はあったが、千円を下るものが多くあり、日本人観光客が多い理由もわかった。クレジットカードに関しては、韓国は進んでいると感じた。ほとんどのお店でクレジットカードが使えるのである。これは効率もいいミスもなくなるため良いと思った。

三週間の留学を通して、日本と比較すると良い点もあれば悪い点もあり、さらに韓国に興味がわいてきた。旅行で釜山などの都会へも行ったが、私は田舎だったからこそ多くの経験ができたのではないかと振り返る。日韓関係に関しては、まだまだ世代によっては偏見の目で見える者もいる。慰安婦像も見かけたが、私は慰安婦像について詳しく知らなかった。日韓関係をよくするためには避けては通れない道であり、そのような歴史も受け入れたうえで私たちは進んでいかなければならないと思った。これらのことを含め、私は留学先が大邱大学でよかったと思っている。そして再び韓国を訪れたいと思った。



韓国の自動販売機

「留学して気づいたこと」

農学部生物環境科学科 1年 重松 佑佳

私が大邱大学校留学プログラムへの参加を決めた理由は、大学生の夏休みの二ヶ月間という長い期間で、新しいことに挑戦したいと思ったからです。初めての海外生活ということで、日本を発つ前は不安でいっぱいでした。しかし、3週間はあっという間で、毎日が充実した楽しい留学生活でした。どんなに細かい部分でも、日本との違いを発見するのはとても面白かったです。

例えば、車の走るスピードがとても早いことです。初日は、走る車の速さにまだ慣れておらず、道路の反対側へ渡るのにとても苦労しました。知り合った韓国人に話を聞いてみると、法律で速度制限は決まっているが、法の力が弱いいため決められた制限速度よりも圧倒的に早いスピードで走る車が多いと教えてくれました。

留学中の移動手段としてよく公共バスを利用していました。韓国のバスは日本とは異なり前から乗車し、後から降車するようになっています。バスに乗って、完全にバスの扉が閉まっているのに韓国のバスは走り出します。乗るのに時間が掛かってしまうと、運転手から「バリバリ」（日本語で早く）と言われ急かされます。また、ほとんどの韓国人が日本というSUICAやICOCAなどの交通カードを持っており、カードにお金を予めチャージして運賃を払う人が多かったです。初めて韓国のバスに乗った時にはそのスピードの速さに圧倒されました。そのスピードのおかげで予定より早く目的地に着くことが多かったのです。

また、韓国で買い物をする際にも日本との違いが見られました。まず、韓国はカード社会のため、ほとんどの人がクレジットカードで支払いを済ませます。韓国は物価がとても安いです。一個買ったらもう1個貰えるなどおまけの制度があります。また、日本とは異なり買い物袋は店員さんに言って買わないと貰えません。最初の頃は、韓国語で袋をくださいと言えなかったのが、なんとか、ジェスチャーを使って、店員さんに伝えていました。

韓国語の授業は基本的に毎日あり、金曜日がだいたい大邱近郊ツアーの日で、週に2、3回韓国語の授業を受けたあと文化体験がありました。韓国語の授業は4時間あり、50分に1回休憩がありました。クラスは細かく別れており、韓国語初心者から喋れる人まで、自分のレベルにあったクラスで授業を受けることができます。私は、ハングルが読めなかったので一番下のクラスでした。先生は、基本的に韓国語しか喋らないので最初は何を言っているのか全くわかりませんでしたが、日が経つにつれて、単語が聞き取れたり、先生が何を言おうとしているのが分かるようになってたりして、とても嬉しかったです。また、授業はクラスによっては違う国の人と一緒に受けることもありました。私のクラスでは、ベトナム人と日本人が半々で、1人アイルランドから来た方がいました。授業中に発音の練習で、日本人が苦手な発音、ベトナム人が苦手な発音とアイルランド人が苦手な発音が違うことが分かり、普段喋っている言語の発音の癖がそれぞれの国にあって面白いと思いました。

文化体験では、折り紙でチマチョゴリを作ったり、韓国の伝統的な遊びを教えてもらったり、筆箱を作りました。ここでも、指示は全て韓国語なのでとても勉強になります。

このように、実際に留学して現地で生活してみないと分からない発見がたくさんあります。

また、座学だけでは補うことのできない実戦経験がたくさんできます。現地に行けば、周りは韓国語を話す人ばかりで、生の会話を聞くことができ、自分が習った単語など、注意して聞けば分かることもあります。バスに乗る時や、道を尋ねる時、買い物をする時、授業で先生に質問する時など習ったことを活かせる場面がたくさんありました。

授業で習ったことをすぐに実際の生活で使えるというのは留学してないとできないことだと思います。

韓国語が話せなくても、英語を使ったりジェスチャーを使ったりして懸命に相手に訴えかければ相手に伝わりました。

私はこの3週間で多くのことをたくさん学びました。まずは、韓国語です。韓国に来たばかりの頃は、ハングルも読めない私でしたが、今では読めるようになり発音も覚えることが出来ました。また、少しではありますが、簡単な会話もできるようになりました。

そして、国際交流をもっとやりたいという意欲が高まりました。韓国に来て、多くの韓国人の方と関わりましたが、出会った人みんなに親切にしてもらいました。私たちが困っていると分かったら、話しかけて、教えてくれる韓国人の方もいました。私も日本で困っている外国人の方がいれば親切にしたいと思いました。また、私は大学でサークルに入っていないですが、新学期が始まったら国際関係のサークルに入ろうと思います。外国人の方と関わる機会があれば積極的に参加したいです。

留学はお金もかかり、長い期間海外にいるため時間もとられますが、留学して得られるものを考えると、それだけの価値が留学にはあると思います。

このようなプログラムがまた実施されるなら、私は積極的に参加したいと思います。



文化体験での制作作品

「韓国での生活」

理工学部機能物質科学科 1年 尊田 早紀

私が大邱大学のプログラムに参加したきっかけは、日本とは異なる環境下で生活し、自分自身の考え方の幅を広げたいと思ったからである。高校生の頃から周りの友人が留学に行っていたので、留学に対する憧れは強かった。しかし、1人で海外に行くこと、言葉が伝わらないのではないかという不安が行きたいという気持ちよりも勝り、結局留学することを諦めた。このまま留学しないで後悔しなくなかったので、思い切って、SUSAPに応募した。

私がSUSAPで韓国を選んだ理由は、アルバイト先に来る韓国人に韓国で接客出来るようになりたいと思ったからである。韓国語が話せないからと接客するのを躊躇するのではなく、本プログラムをきっかけに韓国語の学びの場として、これから韓国語のスキルを向上させたいと思い、大邱大学のプログラムに参加した。

私は大学の授業で韓国語を取っていたわけでもなかったもので、全くの初心者であった。空港から大邱大学へ向かう車中ではじめて、授業が全て韓国語だと知らされ、不安になった。大邱大学での授業の初日、先生の言っていることが何にも分からなかったし、他の留学生たちの様子を見てもますます不安になったし、大邱大学で19日間もやっていけるのかと心配になったが、大邱大学の先生方はとても優しく、ハングルの書き方、発音などから丁寧に教えてくれた。先生は、いつも“괜찮아”と励ましてくれた。また、放課後の文化体験では、韓国の伝統の服“チマチョゴリ”の形をしたふく袋折り紙や紙で出来た筆箱づくりを先生方と共に楽しんだ。

週末には大邱近郊をまわるバスツアーがあり、美しい山々に囲まれた寺、博物館などを見学した。大邱が昔から繊維産業が盛んに行なわれていたことは本プログラムに参加しなければ知ることはなかった。さらに、時代ごとに展示された品々から大邱の繊維産業の移り変わりを学ぶことができ、特に、絹織物から自動車のシートへ変わっていく様子から時代の流れ、産業の進歩を感じられた。

授業で習った韓国語を実際に街で使うため、空き時間は買い物に出かけた。初めは単語も文法も全然わからない状態だったので、街へ出て買い物をしたり、食事をしたりするのは怖かったが、徐々に知っている言葉が増えて街へ出るのが楽しくなった。私が思っている以上に授業で習った言葉が使われていて、“今日習った言葉を使いたい”と日々の授業のモチベーションの向上にも繋がった。

韓国に行って思うことは、今まで自分がどれだけ狭い世界で物事をとらえていたのかということだ。日本のメディアからの情報は、日本と韓国の関係をマイナスイメージで捉えがちである。今までそのような偏った情報のみから得た視点しかなかった私は、韓国人は薄情な性格だと思っていた。しかし、本プログラムに参加して韓国人に対するイメージが大きく変化した。甘川文化村に行った際には、ボランティアとして自ら道案内を引き受けてくれる人と出会い、また、地下鉄やバス、お店を教えてくれる人など多くの人に支えられた。今思えば、そういった助けがなければ、韓国での生活はこん

なにも充実したものではなかったと思う。また、地下鉄やバスに乗った際、多くの若者が高齢者の方々に席を譲る姿を目にし、日本と類似していると感じた。メディアの多くが日本人はとても優しく、親切だと取り上げ、日本人が1番かのように取り上げるが、実際、韓国も日本と同じように情に厚い性格であると感じた。

本プログラムに参加して、私が19日間で1つだけ後悔していることがある。それは、出発前の韓国語の勉強に対する取り組みが少なかったことだ。ハングルが読めて、基本会話などは出来るようになっておく必要があったと思った。

本プログラムを通じて、言語の能力に関係なく、積極的に相手に自分の意見を伝えようとするようになったことは自分自身の大きな変化である。韓国の習得だけでなく、自分自身を成長させる19日間だったのではないと思う。これをきっかけに、これから韓国語の勉強に励んでいくつもりである。

↓大邱大学最後の日ー修了証書授与式での1枚



「韓国で学んだこと」

農学部応用生物科学科 1年 柴戸 沙綾

私は大邱大学校で3週間短期研修をしました。私がこの夏にプログラムに参加したのは、2か月という長い夏休みを何もせずに終えるのはもったいないと思ったのがきっかけでした。3週間という期間はあっという間で短いようにも思えましたが、これまでの人生で経験したことのないくらい本当に充実した日々を送ることが出来ました。ここでは、この3週間で学んだことを紹介していこうと思います。

1つ目に学んだことは、やはり韓国語です。このプログラムでは、平日の午前中は毎日4時間みっちり韓国語の先生による韓国語の授業を受けました。クラスは習熟度別に分かれており、私は1番下のクラスでしたが、先生はこんな私も見捨てずに分かりやすく指導してくださいました。最初は先生の言っていることが何も分からず、授業から抜け出したいと思うこともありました。しかし、授業を受けていくうちにだんだんと韓国語を理解できるようになっていくのを自分でも実感でき、韓国語を学ぶことに楽しさを感じるようになりました。授業の時以外でも、積極的に身の回りにある韓国語を読んだり、街に出かけたときにもバスの運転手やお店の人と韓国語で会話したりすることを心掛けました。大邱では韓国語以外の言語はほぼ通じないため、その日の授業で習ったことをすぐにそのまま生かす機会が多くあり、韓国語の上達がとても早く感じられました。ハングルすら読めないという本当にゼロからのスタートでしたが、先生方の熱心な指導とこうした心掛けによって、留学を終えた今ではハングルを読めるようになったのはもちろん、初歩的な日常会話ができる程になりました。

2つ目に学んだことは、日本と韓国の文化の違いです。韓国は何事も早く済ませようとします。その文化が最も現れているのがバスです。韓国のバスは、急いで乗らないとすぐにドアが閉まり、置いていかれてしまいます。乗っている途中でもバスが動き始めて、ものすごいスピードで走り始めてしまいます。日本では想像できないこの光景に私は本当に驚きましたが、韓国人の友人にバスのことを聞いてみると「安全かどうかよりも早く目的地に到着するかどうかの方が大切だ。」と言っていて、改めて文化の違いを感じました。また、韓国は日本よりも物事の規則が緩く感じました。中でも1番驚いたのが仕事での態度です。韓国では、コンビニや飲食店では携帯電話を扱いながら仕事をしている光景をよく見かけました。物事の規則に厳しい日本では有り得ない光景だったのでとても驚きました。また、私がバスに乗っていた時に、道のど真ん中で急にバスが止まり、運転手がお手洗いのために外へ出て行ってしまうこともありました。日常生活を送っていく中で、このような日本との違いを発見する機会がたくさんあり、韓国での生活は毎日が新鮮に思えました。

3つ目に学んだことは、人々の温かさです。留学するまでは、韓国人といえばニュースに流れる反日派の方のイメージが大きかったので、韓国の方に対して勝手に恐怖心を抱いていました。しかし実際にはそのようなことはなく、私が韓国で出会った人は、どの人もいい人達ばかりでした。週末に訪れた釜山の甘川文化村では、韓国人のボランティアのお兄さん

さんが、案内してくれたり写真を撮ってくれたりして下さり、とても楽しく観光をすることが出来ました。また、飲食店ではお店の人が気さくに話しかけて下さり、日本人観光客である私達を歓迎してくれました。このような人々の温かさがあったからこそ、充実した韓国生活を送れたのではないかと思います。

その他にもこの3週間では、ここには書ききれないほどの多くのことを学ぶことができ、自分を成長させることが出来ました。やはり日本にいただけでは学べないことばかりで、自分の視野を広げるためには海外に行くのが大切なのだと実感しました。また、海外に行くことによって今まで気づかなかった日本の魅力にも気づくことが出来るということも分かりました。今回、このプログラムに参加して本当に良かったです。今後もこのようなプログラムがあれば、積極的に参加していきたいです。



↑甘川文化村にてボランティアのお兄さんと

「海外に行って気づいた大切なこと」

農学部生物環境科学科 1年 原口ななみ

私は8月7日から25日までの19日間大邱大学のプログラムに参加しました。これまで留学経験はもちろん海外にもでたことがなかった私にとってこの期間はとても刺激的でした。私が留学した中で感じたことがいくつかありました。

まず、違いを受け入れることの大切さです。韓国は日本の隣の国であるといっても違う国なので生活している中で日本と違うことがたくさんあります。お店に行った時の店員さんの対応の仕方や、バスの乗り方などの日本との違いを知ったとき、初めはなぜ日本のようではないのかと嫌悪感を抱いていました。また、大邱大学での韓国語の授業は日本人だけではなく、ベトナム人や中国人などの様々な国の人たちとも一緒に受けました。その時に日本とは違う授業の受け方の態度に驚きました。しかし、数日間過ごしている間に韓国や他の国ではこれが普通なのだと気づきました。彼らからすればそれは普通のことなのだと分かってからは違いを楽しむことが出来るようになりました。自分と違うものを見たときに私は最初のうちはその違いを受け入れることが出来ないものだと初めて気づきました。韓国の留学中に違いが面白いと思えるようになってからは捉え方が180度変わりました。違いを100%理解することは難しくても、受け入れることが出来ればこれからまた国際交流をすることがあっても、もっとたのしめるだろうと思います。

また、伝えようとするものの大切さも感じました。私は流暢に話せるほどの韓国語のスキルは持っていません。もちろん日本語を話すことのできる韓国の人もほとんどいません。その中でやり取りをしなければならない場面はたくさんありました。その時はわかる限りの韓国語の単語や、英語、ジェスチャーなどあらゆる方法でなんとか伝えようとしていました。そうすると大体は不思議と相手に伝わるし、私も理解することが出来ました。例えお互いの言語がわからなくても相手に伝えようとする気持ちがあればその気持ちは相手に伝わるし、やり取りは可能なのだと思いました。それとは別に韓国語が話せるようになりたいとも思いました。

現地の学生さんと交流する中で痛感したのが自分が将来のことについてあまり深く考えていないということです。韓国の大学生と会話していると必ずと言っていいほど将来はどんな職業に就きたいのか、どんなことをしたいのかについて聞かれました。私はまだはっきりとした目標がないためにそういった質問に答えることが出来ませんでした。向こうの学生さんは自分の入りたい会社まで決まっていました。そんな自分が情けなかったし、目標がはっきりとしている韓国の学生さんたちがすごいと思いました。

先ほどの話にも通じますが自分の意思をはっきりさせることの大切さも感じました。意見を周りに合わせるのとは日本の良い所でもあると感じますが、時には自分の意見をしっかり持つことが必要な場面もあると思いました。会話をしている中で、「あなたはどう思うの?」と聞かれる場面がありましたが、私は周りに合わせて自分の考えをはっきり持たない傾向があったので自分自身の意見を聞かれたときにとても困り

ました。周りに合わせて自分の考えを持たないことで楽をしていたのだと気づくことが出来ました。

今回の大邱大学の留学で韓国の現実を自分の目で実際に見ることが出来ました。もともと韓国ドラマや韓国の歌手が好きだったことから多少の知識はあったものの、実際に現地の人と交流して、韓国のことがもっと好きになりました。たくさんの方が、私が困っていると助けてくれて、海外で親切にしてもらうことがどれだけ嬉しいのかよくわかりましたし、そのことでその国に対する印象も変わることに気づきました。日本にきている海外の人を私も助けることが出来ればいいなと思います。自分の常識が通じないことがとても面白いと感じることが出来るようになったのでまた海外に行ってみたいです。また反対に私は日本が好きなのだと実感したのもっと日本のことについても学ぶべきだと思いました。大邱大学の留学プログラムに参加してこれまで気づけなかったことにたくさん気づくことが出来てよかったです。



↑ プログラム中に作成した折り紙